

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Impact of intention and feeling toward being pregnant on postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル: 妊娠の意図と妊娠時の気持ちが産後うつへ与えるインパクトについて:子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Archives of women's mental health

年: 2018 月: 12 巻: 頁:

筆頭著者名: 馬場幸子

所属UC名: 大阪UC

目的:

妊娠の意図と産後うつとの関連は報告されているが、妊娠時の気持ちと産後うつとの関連についての報告は見当たらない。妊娠の意図及び妊娠時の気持ちと、出産後一か月時の産後うつとの関連について検討することを目的とした。

方法:

対象者はエコチル研究参加者のうち、単胎の生児を出産した者かつ妊娠の意図及び妊娠時の気持ち、産後うつとの質問紙に未回答項目のない92,462名とした。妊娠の意図及び妊娠時の気持ちと、産後うつ(EPDS9点以上、12点以上)の関連について、多変量ロジスティック解析を行った。

結果:

妊娠時の気持ちをとともうれしかった、と回答したものと比較して、予想外だがうれしかった、予想外でとまどった、困った、特に何とも思わなかったと回答したものでは産後うつリスクが上昇した(EPDS9点以上の多変量調整オッズ比=1.17(95%信頼区間, 1.11-1.22), 1.39(1.29-1.49), 1.74(1.42-2.14), 1.58(1.22-2.02))。EPDS12点以上ではより高いリスクを認めた。気持ちと産後うつとの関連は妊娠前の抑うつなし群でより顕著に認められた。

考察:(研究の限界を含める)

本調査の結果では、妊娠時の気持ちが、予想外だがうれしかった、予想外でとまどった、困った、特に何とも思わなかった、である女性において産後うつリスクが高いことを示した。妊娠前の抑うつ傾向による層別化解析では、抑うつあり群で関連が弱くなったことから妊娠時の気持ちと産後うつとの関連を妊娠前の抑うつ傾向が修飾していると考えられた。研究の限界は、妊娠時の意図と気持ちを独立に質問しなかったこと、産後うつや妊娠前抑うつは医療者の診断によるものではないことなどがあげられる。

結論:

妊娠時に予想外だがうれしかった、予想外でとまどった、困った、特に何とも思わなかった女性を産後うつハイリスク群とし、産後うつ早期発見及び予防のターゲットとみなすことが重要だと考えられる。